

東っ子

H29. 10. 18
甲府市立東小学校
10月号

学校教育目標
「楽しみがゆきわたる」
～山梨一明るい学校～

4月18日（火）に実施した全国学力学習状況調査の結果について報告いたします。

全国学力学習状況調査は、6年生を対象に教科に関する調査(国語・算数)と生活習慣や学習環境に関する質問紙調査を、3つの目的< ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。②このような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。③学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる>で実施されました。

このたび、本校の分析結果がまとまりましたので、その概要を保護者の皆様にお知らせするとともに、地域の皆様にも回覧をしていただき、お知らせして参ります。なお、調査に参加した6年生には各自に、保護者には個別懇談で、個人票を基に具体的な課題等について説明していく予定です。よろしくお願いたします。

報告します 「全国学力・学習状況調査の分析結果の概要」

1 本校の状況< 学力調査 >

国語A

- 登場人物の相互関係や心情、場面の描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる問題の正答率が高い。
- 易しい文語調の俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取ることに関わる問題の正答率が高い。
 - ・漢字の書き取りの正答率が高いが、読みの正答率が低い。
 - ・互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながらとらえる問題の正答率が低い。
 - ・目的に応じ、内容の中心をとらえる問題の正答率が低い。



算数A

- 小数の乗法や除法の計算問題はよくできていて、数量の関係を数直線に表す問題の正答率も高い。
- 正多角形を分解したり、組み合わせたりすることで、その性質を理解する問題の正答率が高い。
 - ・未知の数量を□などを用いて表し、その関係を式に表したり、□などに数を当てはめて調べたりする問題の正答率が低い。
 - ・資料を二つの観点から分類整理し、表を用いて表す問題の正答率が低い。



算数B

- 示された考えを解釈し、数を変更した場合にも同じ関係が成り立つことを、図に表現する問題の正答率が高い。
- 問題に示された二つの数量関係を一般化してとらえ、そのきまりを言葉と数を用いて書く問題の正答率が高い。
 - ・料金差を求めるなど日常生活の問題の解決のために、示された資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを言葉や式で書く問題の正答率が低い。
 - ・目的に応じて資料を集めて分類整理し、円グラフや帯グラフを用いて表したり、割合を比較するという目的に適したグラフ選ぶ問題の正答率が低い。
 - ・示された説明を解釈し、別の場面に適用しながら、その説明を言葉と式を用いて記述する問題の正答率が低い。

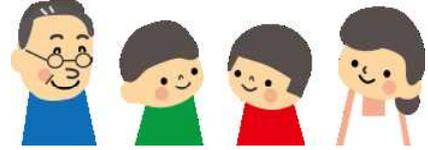
国語B

- 目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す問題の正答率が高い。
- 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえる問題の正答率が高い。
 - ・目的や意図に応じて、文章を引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えを伝える問題の正答率が低い。
 - ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら書く問題の正答率が低い。

*裏面へ続く

2 本校の状況＜質問紙調査＞

- 「学校のきまりを守っていますか」、「人が困っているときは、進んで助けていますか」、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は全国や県より高く、本校児童の規範意識が高いことが伺える。
- 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」、「人の役に立つ人間になりたいですか」、の質問に対して肯定的な回答が多く、児童の自己肯定感が高いことが伺える。
- 「家の人は、授業参観や運動会などの学校行事に来ますか」の質問に対して、家の人が来てくれると答えた児童の割合は全国や県よりも高く、9割をこえている。
- ・「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は全国や県より低い。また、「学校の授業などで自分の考えを説明したり、文字に書いたりすることは難しいと思いますか」の質問に対しても同様な傾向が現れている。
- ・一日当たりのテレビやビデオ・DVDの視聴時間は、3時間以上と回答した児童の割合は全国及び県より高い。また、一日当たりのテレビゲーム（携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしている時間が、2時間以上と回答している児童の割合は全国及び県より高い。
- ・「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」の質問に対し、全国では「1時間以上2時間より少ない」の割合が最も高いが、本校では「30分以上1時間より少ない」と回答した児童の割合が最も高くなっている。



学校としてこれからの学習への取り組み

全国学力学習状況調査の目的にある「教育指導の充実や学習状況の改善」に向けて、学校全体で次のことに取り組みます。

★ 授業において(活用型授業を取り入れ、思考・判断・表現力育成に向けて)

* 学習規律の指導

低学年から、「姿勢・挙手の仕方・発言の仕方・返事の仕方・聞き方・話し方・声の大きさ、持ち物」など、各学年に応じた学習ルールを確認し、守るように指導を行う。

* ICTの活用

デジタル教科書・実物投影機を使い、電子黒板や大型テレビで視聴させるなど、児童の視覚に訴える等の工夫をして児童に分かりやすい授業を展開するために、ICTを授業に積極的に取り入れる。

* 「読みとる力」コミュニケーション力を高める取組

学力を向上させるには課題をしっかりと読みとり、自己の考えを持ち、自己の考えを発表して他者と交流しながら学び合いながら学習を進めていくことが大切となる。「読みとり、互いの考えを交流する力」の育成を課題とし、教職員全員で研究し、実践していく。特に、読みとったことを発表するの場面では、「根拠」「理由」「主張」を意識して、丁寧に伝え合う活動に力を入れていく。

★ 学校生活全体において(一人ひとりの児童を大切に、言語力向上に向けて)

* 学習内容の理解が十分でない児童への個別対応

学校生活全体を通して、一人ひとりの児童に応じて指導する時間を生み出し、基礎・基本となる事項の定着を図る。

* 言語活動の推進

国語の学習・業前の朝読書・業間や放課後の図書館利用等を通して、読書活動を推進する。また、漢字の筆順はもちろんのこと、ノートやプリント、作文など様々な場面において漢字や言葉の使い方を丁寧に指導する。

家庭では→学習習慣の定着にご協力を！！(質問紙調査からの改善点)

本校の児童は、規範意識や自己肯定感が高く、何よりも、学力向上で重要な力となる毎日の授業にも一生懸命に取り組んでいます。また、保護者の方の児童や学校行事に対する意識も高いことも素晴らしいと思います。しかしながら、質問紙調査結果を見ますと、今後、改善が必要と思われるのが、「家庭学習の習慣化」が昨年度に引き続き課題として浮かび上がってきました。

学校でも上記の取組を実施したり、「家庭学習の手引き」の作成・配布したりしています。また、今年度は、南中学校の学習強化週間に合わせて、「東小学校学習強化週間」の設定するなどの工夫しています。ぜひ、家庭学習の習慣が定着できるよう学習環境を整える、声かけをして励ましていただくなどご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



特に、全国と比べるとテレビやビデオなどの視聴やゲームの時間は長く、家庭学習の時間が短い実態が浮かび上がってきました。学習効果を高めるためには、集中度合によって異なりますが就寝時刻や生活時間から考え、学年×10分の家庭学習の時間、具体的には低学年が10分～20分、中学年は30分～40分、高学年では50分～60分が目安とされています。

学校でもテレビやビデオなどの視聴やゲームに関する指導をしたり、各ご家庭におきましてもテレビやビデオなどの視聴やゲームの時間を決める、家庭学習の習慣が定着できるよう学習環境を整える、声かけをして励ましていただくなどご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

全国学力学習状況調査の目的の③にある「教育指導の充実や学習状況の改善」に向けて、学校全体で次のことに取り組みます。

☆ **授業において(活用型授業を取り入れ、思考・判断・表現力育成に向けて)**

*** 学習規律の指導**

低学年から、「姿勢・挙手の仕方・発言の仕方・返事の仕方・聞き方・話し方・声の大きさ、持ち物」など、各学年に応じた学習ルールを確認し、守るように指導を行う。

*** ICTの活用**

デジタル教科書・実物投影機を使い、電子黒板や大型テレビで視聴させるなど、児童の視覚に訴える等の工夫をして児童に分かりやすい授業を展開するために、ICTを授業に積極的に取り入れる。

*** コミュニケーション力を高める取組**

学力を向上させるには自己努力も大切であるが、互いに切磋琢磨して高め合っていくことが重要であるので、コミュニケーション力の育成を課題とし、手だて等を教職員全員で研究し、実践していく。特に、コミュニケーションの場面では、「根拠」、「理由」、「主張」を意識して、丁寧に伝え合う活動に力を入れていく。

☆ **学校生活全体において(一人ひとりの児童を大切に、言語力向上に向けて)**

*** 学習内容の理解が十分でない児童への個別対応**

学校生活全体を通して、一人ひとりの児童に応じて指導する時間を生み出し、基礎・基本となる事項の定着を図る。

*** 言語活動の推進**

国語の学習・業前の朝読書・業間や放課後の図書館利用等を通して、読書活動を推進する。また、漢字の筆順はもちろんのこと、ノートやプリント、作文など様々な場面において漢字や言葉の使い方を丁寧に指導する。

3 教科における主な改善点

国語

- ・漢字書き取りの課題があることから、ミニテストを定期的実施したり、漢字を使っての熟語作りや短文作りなどを取り入れて日頃から漢字を使う活動を工夫しながら繰り返し指導をする。
- ・文の構成要素「主語」「述語」「修飾語」のきまりについて、基本的な文で復習を取り入れたり、短文作りを行ったりして理解を図るよう学習する。
- ・文章を読む力、内容を読み取る力、読解力に課題がある。国語の授業はもちろん、他の教科の授業においても積極的に読む場面を設定して授業を進めるようにする。また、朝読書の時間も有効に活用していく。
- ・与えられた条件や例示を理解して、それらを活用しながら、説明や文を書くことに課題がある。学習感想を書く、板書をまとめるなど、ノート指導を中心に書くことを重視した学習活動を取り入れた授業を工夫するとともに、学活や係活動、帰りの会の場面などにも書く活動を工夫していく。

算数

- ・小数の計算について、位取りの確認をするとともに、式を立てる時点で概算をして答の見積もりを立ててから計算することにより、位の間違いに自分で気づくようにしていく。
- ・小数、分数などの数を具体物や図に表したり、数直線で示したりなど視覚的に表すことにより数を量的にとらえることができるよう指導を工夫する。
- ・定規やコンパス、分度器などの用具を使用しての作図や製作活動を意図的に仕組んでいくことにより、図形について体験的に学び、その性質の理解を深めるようにする。
- ・基準量、比較量、割合の関係を児童自らが図やグラフに表して説明できることを重視した学習を展開して割合の理解を深めるようにする。

4 質問紙調査の主な特徴

(1) 生活習慣について

- ・「朝食を毎日食べていますか」の質問に対して、全く食べていないと回答している児童はいなかったものの、あまり食べていないと回答した児童が若干ではあるがいた。
- ・起床時刻、就寝時刻を問う質問に対して、毎日同じくらいの時刻に起きている・寝ていると解答した児童の割合が全国及び県よりも高い。
- ・一日当たりのテレビやビデオ・DVDの視聴時間は、「4時間以上」と回答した児童の割合は全国より若干低いものの、「2時間～4時間」と回答した児童の割合は全国よりも高い。
- ・一日当たりのテレビゲーム（携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしている時間が、2時間以上（4時間以上、3～4時間、2～3時間の合計）と回答している児童の割合は、全国及び県より高い。
- ・「普段（月～金）、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」の質問で、30分以上（4時間以上、3～4時間、2～3時間、1～2時間、30分～1時間の合計）と回答している児童の割合は、全国及び県平均より低い。
- ・携帯電話やスマートフォンを持っていないと回答した児童の割合は4割余りで、これは全国及び県平均とほぼ同程度である。

(2) 学習に対する関心・意欲・態度について

- ・「国語の勉強は好きですか」の質問に対して、「当てはまる」と回答した児童の割合は、全国及び県の割合より高い。
- ・「国語の勉強は大切だと思いますか」の質問に対して「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と回答をしている児童の割合は非常に大きく、全国及び県より高い。その一方で、「当てはまらない」と回答している児童の割合も、全国及び県より高くなっている。
- ・「算数の勉強は好きですか」の質問に対して、「当てはまる」と回答している児童の割合は全国及び県より高い。しかし「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた肯定的な回答の割合の合計は、全国及び県より低くなっている。
- ・「算数の勉強は大切だと思いますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は非常に大きく、全国及び県より高い。
- ・「理科の勉強は好きですか」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は非常に大きく、全国及び県より高い。
- ・「理科の勉強は大切だと思いますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は非

常に大きく、全国及び県より高い。

- ・「読書は好きですか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は高く、全国及び県と同程度である。

(3) 家庭学習について

- ・「家で、自分で計画を立てて勉強をしますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は、全国及び県より低い。
- ・「家で、学校の授業の予習をしていますか」及び「授業の復習をしていますか」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は、いずれも全国及び県平均とほぼ同程度である。
- ・「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」の質問に対し、全国では1時間以上2時間より少ない」の割合が最も高いが、本校では「30分以上1時間より少ない」と回答した児童の割合が最も高くなっている。

(4) 地域との関わりについて

- ・「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は高く、県とほぼ同程度であり、全国より高い。
- ・「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は全国及び県より高い。

(5) 道徳性に関して

- ・「学校のきまりを守っていますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は、県と同程度であり、全国よりやや高い。
- ・「いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、全員が「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をしている。
- ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は、全国及び県と同様に非常に高い。
- ・「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は全国及び県より低い。
- ・「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は、全国及び県より高い。
- ・「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は全国及び県と同様に高いものの、否定的な回答の割合もゼロではなかった。

5 質問紙調査からの改善点

- ・基本的な生活習慣の確立について、これまでに引き続き「早寝・早起き・朝ご飯」を推奨し、各家庭と連携して取り組む。
- ・読書に親しむ児童を一層育てるため、朝読書や家読活動を一層推進していくとともに、市立図書館等の関係機関と連携して読書環境をより充実させていく。
- ・「夢や目標」の持てるよう将来の自分の姿を描けるように、地域人材や先輩の生き方を教材とした授業づくりや、社会科見学等によるキャリア教育を推進していく。
- ・児童会活動やたてわり活動、学校集会などいろいろな場面で、児童一人一人が活躍する場面を意図的に設定し、「認め合う・誉め合う・支え合う・共感し合う」ことを意識した教育活動の推進に取り組んでいく。
- ・携帯電話やスマートフォンを使っている時間が長く、生活リズムの乱れや家庭学習などに影響を与えていることも考えられるので、家庭と連携して早急に改善を図るよう努める。
- ・否定的な回答をしている児童について、問題点を明らかにし改善していくように、家庭と連携・協力して取り組んでいく。
- ・児童一人一人の状況をきめ細かく把握し、児童理解に基づいた学習指導・生徒指導に努めていく。

家庭での学習習慣の定着にご協力を！！

本校の児童は、日直や当番、委員会や児童会活動でもしっかり仕事をしています。特に、毎朝、あいさつ運動に取り組んでいます。児童会や学級役員に加え、たてわり班も玄関先に立つてあいさつ運動を行っていますし、その際には6年生がリーダーとなって活躍しています。何よ

りも、学力向上で最も大切な毎日の授業にも一生懸命に取り組んでいます。

しかしながら、学習状況調査の結果を見ますと、今後、改善が必要と思われる項目がいくつか目につきます。特に家庭学習の時間が、1時間以上と回答した児童の割合は、全国より低いという状況でした。学習効果を高めるためには、集中度合によって違いますが、就寝時刻や生活時間から考えて、5・6年生の家庭学習の時間は60分～90分がめやすとも言われています。

学校でも「家庭学習の手引き」を作成・配布したり、宿題の出し方なども工夫したりして、児童自らが自主的に学習に取り組むことができるように働きかけています。各ご家庭におきましても家庭学習の習慣が定着できるよう学習環境を整えたり、声かけをして励ましていただいたりするなど、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。